

# 甲子園ホテルの変遷

## —当時のパンフレットからみる経営方針—

横山 千帆

[指導教員：武庫川女子大学教授 黒田智子]

キーワード：甲子園ホテル、パンフレット、迎賓館、林愛作、戦争

### 1. 研究の背景・動機

現在、武庫川女子大学の甲子園キャンパスとして使用されている甲子園会館は、建築家・遠藤新（1886-1951）、支配人・林愛作（1873-1951）によって企画・設計されたホテルである。1930年に竣工・開業されたが、1934年に林愛作が辞任し<sup>1)</sup>、太平洋戦争の激化により1944年にはホテルとしての役目を終えている。「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」<sup>2)</sup>と並び称され、阪神間の高級社交場として賑わう一方で、日本が戦争に向かい、贅沢は敵という風潮が背景に併存している。これらのことから、西の迎賓館<sup>3)</sup>とも呼ばれた甲子園ホテルが14年という短い間でどのようなホテルとして経営されたのかを詳しく知りたいと感じた。

### 2. 研究の方法

#### 2-1. 調査方法

甲子園会館庶務課の方にいただいたホテル運営当時の3種類のパンフレットのデータをもとに、それぞれのパンフレットの特徴を読みとる。比較しやすいよう見た目の色、大きさから青パンフレット、赤パンフレット、小パンフレットと名付け、この順に開業時期に作られたもの、経営者が変わってからのもの、物資の少ない時代のものではないかと仮説をたてた。本稿では、青パンフレットと赤パンフレットをいくつかの視点から比較していく。



図1 青パンフレット、赤パンフレット、小パンフレット  
195×87.5(mm) 224×98(mm) 187×85.5(mm)

#### 2-2. 調査内容

比較する項目としては、パンフレットの全体像（大きさ・色・構成）、英語の量、交通手段、周辺の観光地とロケーション、食事費、宿泊費、セールスポイント、その他関連する事柄についてである。また、他のホテルとの比較も行った。

### 3. 結果および考察

#### 3-1. パンフレットの全体像

青パンフレット：横書き、配色（青・黄・橙・金）、  
見開き2枚を3つ折り



図2 青パンフレットの内容

赤パンフレット：縦書き、配色（赤・緑・肌・朱）、冊子



図3 赤パンフレットの内容

#### 3-2. 英語の量

青パンフレットはホテルの説明が英語と日本語の両方で書かれており、地図や甲子園ホテルのロゴも英語であった。赤パンフレットではホテルの説明は日本語のみで、ロゴにのみ英語が使用されていた。外国人、日本人共に集客していた時代から、日本が戦争に向かうにつれ内向的になり、徐々に日本人の集客がメインになったことが分かる。

#### 3-3. 交通手段

青パンフレットでは、神戸—大阪間を国道2号線が通っていないことを地図で表し、移動にかかる時間も付け加えられていることから、新国道を利用し、自動車アクセスすることに重きをおいている。また、青・赤パンフレット共に阪神電車本線、東海道本線、阪神国道バスが通っており便利なアクセスとなっている。国鉄が青パンフレットにだけ書かれていないことから、甲子園口駅設置（1934）以前だと思われる、最も古いパンフレットだと推測できる。

### 3-4. 周辺の観光地とロケーション

青パンフレットでは、表紙に甲子園ホテルを中心とした地図で描かれており、神戸から滋賀までの広範囲の観光地が記されている。赤パンフレットの場合は、地図ではなく文字で、日帰りで行ける観光地が甲子園ホテルから近い順に記されている。ゴルフ場や温泉など、紳士の遊び場が多く存在した時代から家族向けの観光地に移り変わっていったことが伺える。青・赤パンフレットに共通する観光地は、6箇所と少ない。

表1 観光地の比較

場所	青パンフレット	赤パンフレット
兵庫	六甲山	六甲山
	六甲ゴルフリンク	
	有馬温泉	
	宝塚歌劇	宝塚歌劇
	宝塚ゴルフリンク	
	宝塚温泉	
	甲子園	甲子園総合運動場
	甲子園球場	
	甲子園海水浴場	
		阪神パーク
		阪神水族館
		鳴尾レースコース
		阪神競馬場 <sup>4)</sup>
		鳴尾ゴルフリンク
		廣田神社
神戸	神戸湊川神社 <sup>5)</sup>	神戸湊川神社
	神戸港	
その他		須磨
		舞子
		明石
		姫路城
		淡路鳴門の観潮
大阪	大阪城	大阪城
	大阪湾	
		橿原神宮
	箕面公園(滝)	箕面公園
		能勢妙見
奈良	東大寺(大仏)	
	生駒山	
		吉野
		高野
京都		奈良方面
	東寺(五重塔)	
	嵐山	
	京都方面	
滋賀	琵琶湖	

共通する場所

### 3-5. 食事費

赤パンフレットに注目して見てみると、料金の改正が行われている。料金改正の理由としては、1940年に奢侈品等製造販売制限規則が施行されたことがあげられる。内容は不急不用品、奢侈贅沢品、規格外品等の製造・加工・販売を禁止するもので、甲子園ホテルもこの省令にならい、改正されたと思われる。このことから赤パンフレットは、1940年7月前後に使用されていたことが分かる。

表2 食事費の比較

青パンフレット		赤パンフレット	
朝食	金一円五十銭	朝食	金一円五十銭
昼食	金二円	昼食	金二円八十銭
夕食	金二円五十銭	夕食	金三円

↓

朝食	金一円
昼食	金二円五十銭
夕食	金三円

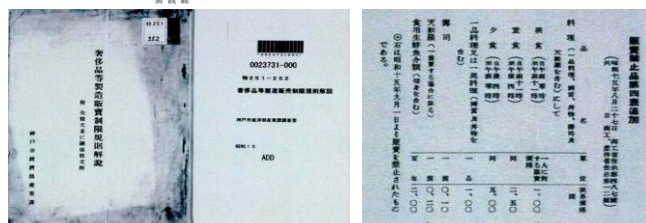


図4 奢侈品等製造販売制限規則<sup>6)</sup>

### 3-6. 宿泊費

洋風次の間付(スイートルームと思われる)は値上がりし、和洋二室(続き間となっている)は値下がりしている。

表3 宿泊費の比較

部屋	人数	青パンフレット	赤パンフレット
洋風一人室(洗面器付)		金五円	金五円
同二人室(専用浴室付)	一人	金八円より	金八円より
	二人	金十二円より	金十二円より
同次の間付( " )	一人	金十円より	金十二円より
	二人	金十五円より	金十八円より
和洋二室( " )	一人	金十円より	金七円より
	二人	金十五円より	金十円より
四階日本間	一人	金七円より	金七円より
	二人	金十円より	金十円より
全室	一人増す毎に	金三円	金二円

金額が変化した部分

## 6. 結論および今後の課題

ホテルのパンフレットには、ホテルの説明・宿泊費・食事費等はもちろんだが、経営者や建築家など様々な人の想いが込められている。時代の背景や経営方針によって様変わりするため、さらに読み解くことが今後の課題である。

### 注及び参考文献

- 1)神戸地方事務局西宮出張所,株式会社甲子園ホテル商号登記簿(コピー),武庫川女子大学甲子園会館庶務課所蔵,1952
- 2),3)竣工前後の新聞記事では,帝国ホテルの支配人であった林愛作が経営を任されたこと,遠藤新が設計したライト式建築であること,日本文化を満喫できる理想的なホテルであること等が確認される。
- 4)1907年鳴尾レースコース創設,1937年阪神競馬場に改名された。
- 5)地図では菊水紋で表現している。  
沼口頼輔:綱要日本紋章学,新人物往来社,98-101,1977
- 6)神戸市経済部産業課調査室,奢侈品等製造販売制限規則解説:全条文並に關係条文附,神戸市経済部産業課調査室,1940